

# NICUにおけるCureとCareの調和

-看護師の立場から-



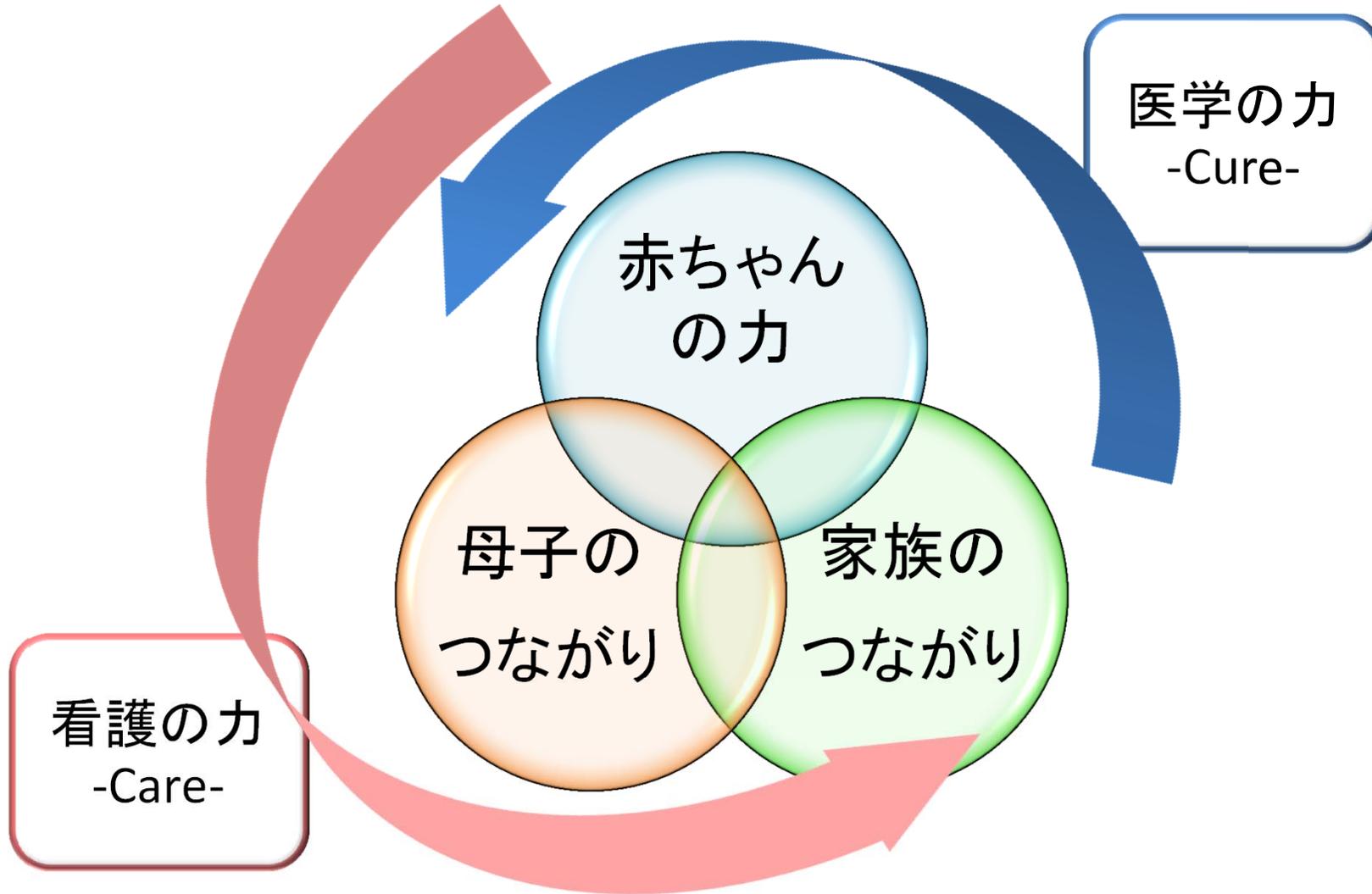
聖マリアンナ医科大学病院  
総合周産期母子医療センター  
新生児部門 看護師 仲井あや  
2011.2.5

# 500gの赤ちゃんとの出会い

NICUに入院した赤ちゃんはどんなふうに成長していくのだろう…。元気なのかな…。お母さんにどうやって声をかけたらよいのだろう…。



# CureとCareの調和



# NICUにおけるCureとCare

赤ちゃんたちの生命を守るため、救命が優先され、治療が優先される。とくに急性期は救命・治療などのCureが中心となる。また、より多くの児を救命するために早期の退院に向けて早いペースで治療が進められていく。

そのときの赤ちゃんの気持ちは…

お母さんの気持ちは…

家族の気持ちは…

大事なCureの部分を守りつつ、赤ちゃんの権利を保障し、成長発達を支え、お母さんとのつながり、家族のつながりを支えていくことも大切。この部分を担うのが、NICUにおけるCare。

# Careの中心となるもの

赤ちゃんたちは、まだ言葉で伝えることができないので、Careする側が意識しないと気付かないことも多くあります。たくさんの医療機器を使用していると、赤ちゃんの全身状態を管理しているような感覚に陥りがちであるとも言えます。けれど、赤ちゃんたちはそれぞれの発達段階に応じた力を備えていて、常に変化し、成長発達をしています。個々の特徴や成長発達段階を見極めながらCareを進めていくことが大切となります。

詩人である谷川俊太郎さんは、子どもたちのことを「小さな人たち」と表現していて、私はこの表現がとても好きです。子どもは大きな人である大人よりも弱い存在ではなく、未熟な存在ではなく、まだ身体も経験も小さいけれど人の一人の人であるという意味が込められていて、子どもへの尊重を感じるからです。谷川俊太郎さんのことばをかりれば、NICUに入院している赤ちゃんたちも、「小さな人たち」です。まだ身体はととてもとても小さく、生まれて間もなくして経験が少ないけれど、一人一人が大切な人です。

言語を用いなくても、バイタルサインや表情、行動、思いやりの心を通して赤ちゃんとのCommunicationを図ることが、Careの中心になると考えます。

KEY WORD

# 赤ちゃんとの COMMUNICATION

赤ちゃんとのCommunicationを通して、  
必要なCareが見えてくる

# 本日の内容

1. 赤ちゃんとのCommunication手段としての  
のディベロップメンタルケア、理論と実際
2. 赤ちゃんの気持ちを大切にしたCare
3. 母子のつながりを支えるCare
4. 家族のつながりを支えるCare



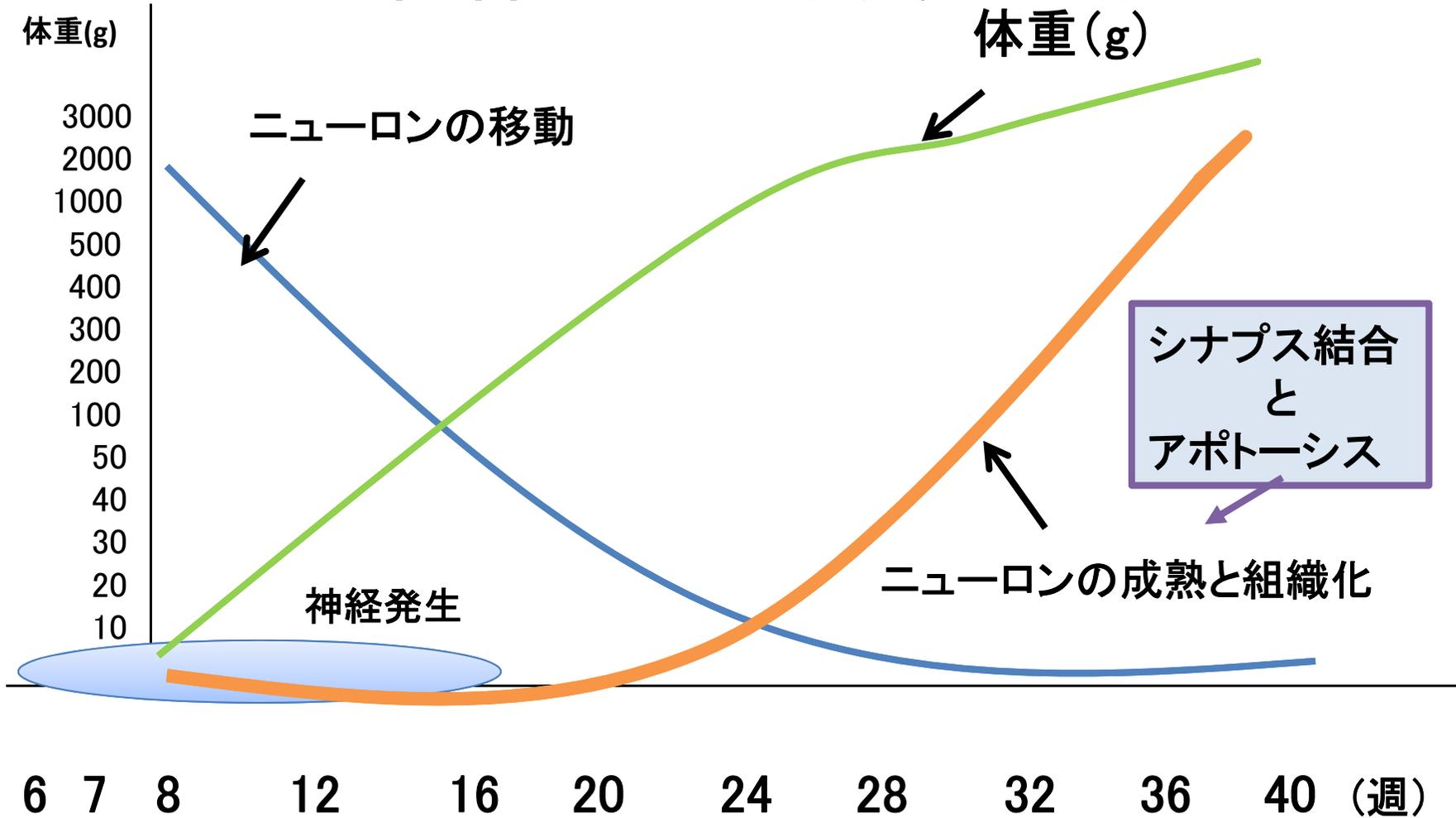
# 1. ディベロップメンタルケアの理論と実際

## 個別的発達促進ケア

(Individualized Developmental Care)

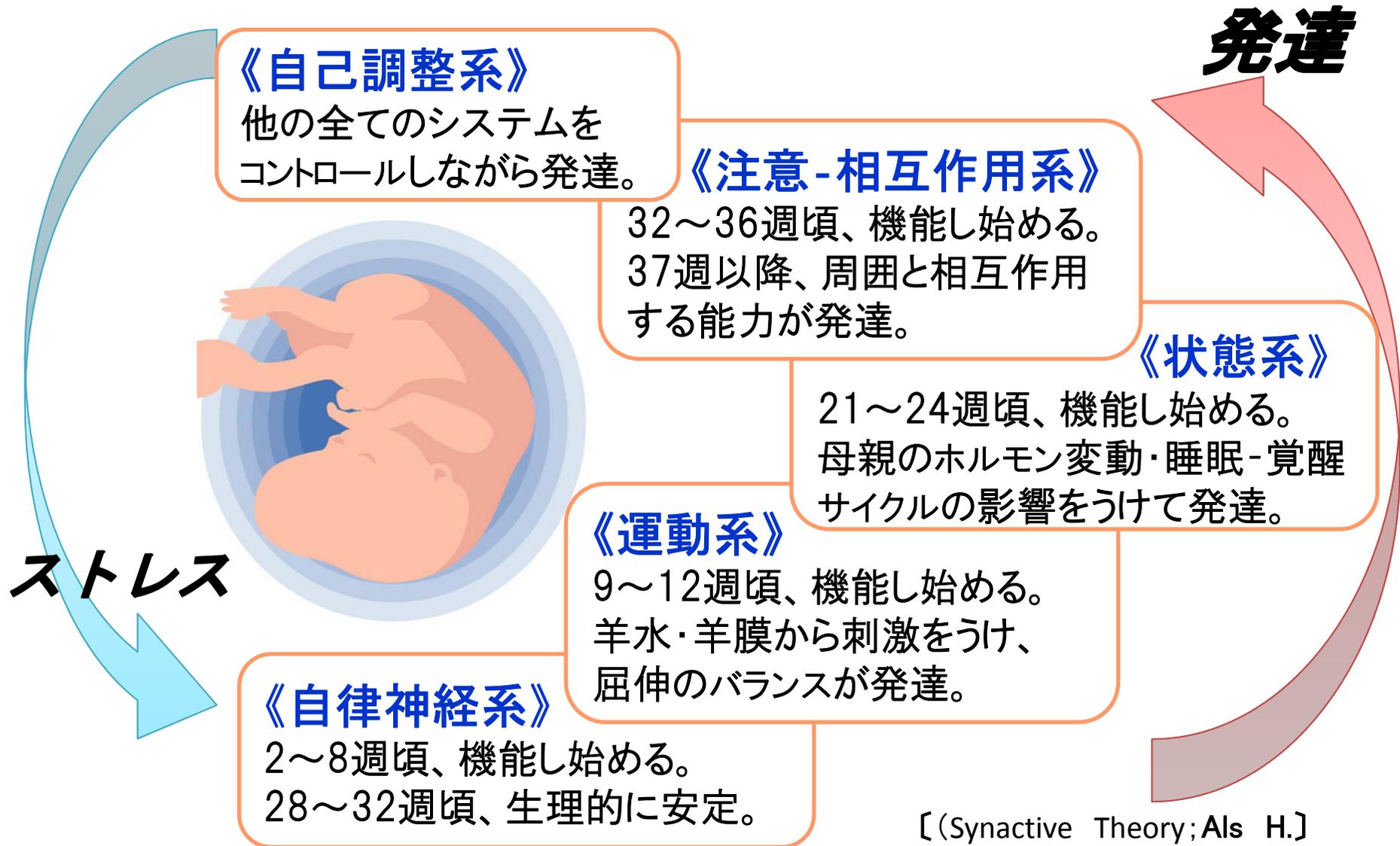
1980年頃、米国ハーバード大学の臨床心理士Alsらにより提唱。新生児の評価に基づいて、より適切なケアを提供することが児へのストレスを減少させて高次脳機能への障害を防ぐとともに、中枢神経系全体の発達を促進するという考えから生み出された。

# 中枢神経系の器質的成熟



[Goldson E.]

# 中枢神経系の機能的発達



# ディベロップメンタルケアの要素



- ・個々の児のストレスに対する反応を観察する
- ・個々の児のサインを読み取りながらケアをすることで、  
ストレスから保護し、安定化を促進する
- ・個々の児の発達に適した環境(音・光)、姿勢に整える
- ・ケアパターンを調整し安静時間を確保する、minimal handling
- ・発達に必要な刺激を受けられるように支援する
- ・個々の児の気持ちの読みとり方やケアの方法を両親・家族と  
共有し、母子の関わり、父子の関わり、家族の関わりを支援する

# 赤ちゃんの気持ちを大切にしたCare



## 2. 赤ちゃんの気持ちを大切にしたCare



### -赤ちゃんの気持ち-

- ・採血痛いよ、身体に力をいれて。
- ・吸引苦しいよ、のどに手をあてて。
- ・お部屋がゴトゴトするよ、そわそわ不安な表情。
- ・眩しいよ、目を覆って。
- ・大きな音がした、耳をふさいで。
- ・姿勢が崩れちゃって落ち着けないよ、不安定な姿勢で。
- ・眠っていたのにびっくりしたよ、興奮して。
- ・ママやパパの抱っこで安心したい。
- ・たくさんチューブや点滴に囲まれているけれど、僕・私の可愛いお顔、ママやパパにちゃんとみえるかな？

# 赤ちゃんへのCareの実際



## 1) 痛みや苦痛からの保護

- ・採血など痛みを伴う時は、赤ちゃんの身体全体を両手で優しく包み込むこと(ホールディング)によって、不安や痛みが最小限になるように支援。
- ・気管内吸引など呼吸の苦しさを伴うものは、バイタルサインや呼吸の状態から必要性を十分にアセスメントして必要最小限に行い、吸引中と吸引後にはホールディングをして安心感を得られるように支援。

## 2) こちよく安心して過ごせる環境の提供

- ・振動や騒音への配慮、薄暗い照明への調整、お母さんのお腹の中をイメージした姿勢の保持。

### 3) 成長発達に必要な睡眠の確保

- ・赤ちゃんの睡眠覚醒状態を観察して、眠っているときには急がないケアはあとにずらし、睡眠を優先する。

### 4) 成長発達に必要なこちよい刺激

- ・身体をそっとなでてもらうこと(タッチング)や、抱っこ、カンガルーケアなどによって、お母さんやお父さんとの情緒的交流を支援する。赤ちゃんの可愛らしさや成長発達している様子を両親、家族と共有し、関係性を深めていく過程を支援する。

# 母子のつながりを支えるCare



### 3. 母子のつながりを支えるCare



-お母さんの気持ち-  
早産になるかもしれないと知ったとき

「切迫早産で入院になってから、もう少しお腹にいて育ってくれれば  
いいかなと思って過ごしていたけれど、予定日より前に帝王切開を  
すると聞いて、それからはとにかく不安だった。」

「産科では赤ちゃんが無事に産まれてたくさんのお客さんに囲まれ  
ている人と入院が長引いて不安で押し潰されそうな人が同じ部屋に  
いることもあるけれど、どちらにとっても前向きな雰囲気にして  
常に関心を持って接してもらえたときはうれしかった。」

-お母さんの気持ち-  
赤ちゃんがNICUに入院したとき

「私ひとり産科にいて、何で入院しているんだらう...って思った。」

「生まれてすぐに入院だったので母親としての実感がなかった。」

「早く抱っこしてあげたかった。」

「赤ちゃんがNICUに入院したのは、早くに生んでしまったことや、自分のせいなんじゃないかって思っていて、なのに自分には何もしてあげられない。そんなふうに、つらい気持ちで面会にきていた。」

「赤ちゃんがどうなるのか不安で、生まれたことを近所の人に言えなかった。」

「最初の頃は赤ちゃんの具合が悪くて病院に来るのが辛かったけど、何とか面会にきていた。何を言われるかと思い、いつも怖かった。」

# 母子のつながりを支えるCareの実際



- 全身状態が落ち着き、お母さんの気持ちも落ち着いてきた頃、妊娠中や出産したときのことを振り返り、お母さんが体験を整理する時間を持つようにする。
- 赤ちゃんの身体の動きや、しぐさをお母さんと共有して、お腹にいたときの赤ちゃん(よく足を動かしていた、活発だった、しゃつくりをよくしていたなど)を再び感じ取れるように支援する。
- 全身状態が不安定なときでも、必ず成長している部分や発達している部分があり、それらを伝えることで、お母さんが赤ちゃんの生きる力や成長発達していく力を信じていられるように支援する。

# 母子のつながりを支えるための連携

お腹にいるときは、お母さんが赤ちゃんを守っています。早産で生まれた赤ちゃんの成長のためには、お腹の中にあるような環境の提供と、お母さんとのつながりの継続が大切になります。

NICUという場所で、赤ちゃんが大切に守られていることがお母さんに伝わり、場所は変わったけれども、赤ちゃんの成長は続いていて、お母さんとの関係もお腹の中にいた時と変わらずに続いていると感じることができたら、とても素晴らしいと思っています。生まれて間もない時期、急性期で救命や治療が最優先される時期こそ、このような母子のつながりを支援していくCareが大切であり、周産期の連携の中核になるのではないかと考えています。

## 4. 家族のつながりを支えるCare



## 4. 家族のつながりを支えるCare



-家族の中でのお母さんの気持ち-

「早産になるかもしれないと知った時、とにかく忙しかった。上の子もまだ小さかったから。生活状況はすぐには変えられないので、お腹が張ってもすぐに病院に行ったり、私が入院するわけにいかなかった。

「ここ(NICU)にくると赤ちゃんのことだけ考えればよいのでまだ気持ちが楽です。家では泣いてはられない。」

⇒ お母さんたちは、家庭に帰れば家事や上のお子さんの育児があったり、仕事をしていた方ならば職場での役割があったりもします。お母さんを支えていくために、そのような背景にも配慮しながら支援を行っています。

## -赤ちゃんがNICUに入院したときのお父さんの気持ち-

「障害なども心配したけれど、父親としての覚悟ができたというか、何があってもちゃんと育てなくてはという気持ちになれた。」

「未熟児網膜症のことや、呼吸のことなど、先生から説明を聞いて分かってはいるけれど、それでも心配で何度も質問してしまったり、インターネットで色々調べては、不安になっていた。」

「子どもが苦しそうにしていると、自分がかわってあげられたらどんなに良いかとおもいます。」

⇒多くのお父さんは、赤ちゃんがNICUに入院したとき、一人で最初に説明を受けることになります。そして、不安や心配な気持ちを持ちながらも家族を支える力をさらに高めていくのだと思います。

-赤ちゃんがNICUに入院したときのきょうだいの気持ち-

「元気になっておうちに退院する日を待っているね」

「おうちに退院したら一緒に遊ぼうね」

「会えないけれどママとパパと一緒に面会にきたよ」

⇒NICUでは、感染予防への配慮からきょうだいの面会に制限のあることが多くあります。赤ちゃんが生まれたけれど、目で見て確かめることができないことで不安を感じています。きょうだいの年齢にもよりますが、信じてまわってしてくれることも多くあります。きょうだいの存在をいつも意識して関わり、赤ちゃんとのつながりを感じられるように支援を行っています。

## -赤ちゃんがNICUに入院したときの祖父母の気持ち-

「一目会えただけでうれしい、安心しました」

「元気そうで本当によかった、ありがとう」

⇒ 祖父母もまた両親と同じように心配や不安な気持ちでいっぱいになっています。祖父母の面会は時間や回数に限られていることも多いため、実際に来られて、赤ちゃんに会うと、涙をながされた後に安堵の表情をされます。祖父母の気持ちへも配慮して家族全体をみてケアをしていくことが、家族のサポート力をさらに高めていくことにつながると信じて支援を行っています。

# まとめ

ディベロップメンタルケアの実践を通して赤ちゃんとのCommunicationを図り、気持ちに沿ったCareを行い、母子のつながり、家族のつながりを支援していきたいと思っています。

それが、大事なCureの部分を守りながら、赤ちゃんたちの権利を保障し、成長発達を支えていくことにつながるのだと考えています。

